

# 第四次地域管理経営計画書 (大槌・気仙川森林計画区)

(一斉変更)

計画期間 [ 自 平成 2 2 年 4 月 1 日 ]  
[ 至 平成 2 7 年 3 月 3 1 日 ]

(第一次変更 平成 2 3 年 3 月)  
(第二次変更 平成 2 4 年 3 月)  
(第三次変更 平成 2 5 年 3 月)

東 北 森 林 管 理 局



## 【変更理由】

次の理由から国有林野管理経営規程（平成11年農林水産省訓令第2号）第6条第9項の規定に基づき変更するものである。

- 1 国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るための国有林野の管理経営に関する法律等の一部を改正する等の法律（平成24年法律第42号）附則第3条の規定により変更する。
- 2 効率的な路網整備の推進のため路線計画を変更する。
- 3 国の史跡に指定されている橋野高炉跡周辺の景観の保全と産業遺産の歴史背景を学習する場とするため、橋野鉄鉱山郷土の森として保護林を設定したことから変更する。
- 4 国民参加の森づくりについて、国有林のフィールドを提供する協定の内容に修正があったことから変更する。

## 【変更項目及び頁】

1 国有林野の管理経営に関する基本的な事項	1
（2）機能類型に応じた管理経営に関する事項	1
（3）森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた貢献に必要な事項	5
（4）主要事業の実施に関する事項	6
2 国有林野の維持及び保存に関する事項	7
（3）特に保護を図るべき森林に関する事項	7
（4）その他必要な事項	7
4 国有林野の活用に関する事項	7
（1）国有林野の活用の推進方針	7
5 公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項	8
（1）公益的機能維持増進協定締結に関する基本的な方針	8
（2）国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項	8
6 国民の参加による森林の整備に関する事項	9
（3）その他必要な事項	9
別表1～6	10

# 1 国有林野の管理経営に関する基本的な事項

## (2) 機能類型に応じた管理経営に関する事項

### ① 機能類型ごとの管理経営の方向

国有林野の管理経営に当たっては、公益重視の管理経営の一層の推進を旨とする方針の下で、個々の国有林野を重視すべき機能に応じて区分し、いわゆる公益林として適切な管理経営を行うものとする。

具体的には、国有林の地域別の森林計画に定める公益的機能別施業森林の区域との整合に留意しつつ、当計画区の国有林野を、国土保全を目的とする「山地災害防止タイプ」、原生的な森林生態系の維持・保存等を目的とする「自然維持タイプ」、森林レクリエーション利用等を目的とする「森林空間利用タイプ」、気象緩和等人間の居住環境の保全を目的とする「快適環境形成タイプ」、水源の涵養<sup>かん</sup>を目的とする「水源涵養タイプ」の5つに区分する。なお、国有林の地域別の森林計画における公益的機能別施業森林と機能類型との関係は下表に示すとおりである。

また、林相の維持・改良等に必要な施業の結果、伐採・産出される木材の有効利用、及び機能発揮に支障を及ぼさない範囲で齢級構成の平準化や地域のニーズに応じて必要な主伐を計画的に行い、伐採木を供給していく。

なお、具体的な取扱いについては、別途定める管理経営の指針に基づき実施することとする。

国有林の機能類型と公益的機能別施業森林の対応

機能類型		公益的機能別施業森林		
山地災害防止タイプ	土砂流出・崩壊防備エリア	水源涵養機能維持増進森林 (立地条件により除外する場合もある。)	山地災害防止機能／土壤保全機能維持増進森林 (対象区域:別表1)	
	気象害防備エリア		快適環境形成機能維持増進森林 (対象区域:別表2)	
自然維持タイプ			保健機能維持増進森林 (対象区域:別表3)	山地災害防止機能／土壤保全機能維持増進森林 (対象区域:別表4)
森林空間利用タイプ			保健機能維持増進森林 (対象区域:別表5)	山地災害防止機能／土壤保全機能維持増進森林 (対象区域:別表6)
快適環境形成タイプ			快適環境形成機能維持増進森林	
水源涵養タイプ				

注) 分収林・共用林野については、契約等に基づく取扱いとする。

ア 山地災害防止タイプにおける管理経営の指針その他山地災害防止タイプに関する事項  
 山地災害防止タイプは、土砂の流出・崩壊、その他山地災害による人命・人家等施設の被害の防備、その他災害に強い国土の形成に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、次の事項に留意して、保全対象と当該森林の位置的関係、地形や地質、森林現況等を踏まえた適切な管理経営を行うこととする。

具体的には、山地災害防止タイプについては、土砂流出・崩壊防備エリアと気象害防備エリアの2つに分けて取り扱う。

(ア) 土砂流出・崩壊防備エリア

山地災害防止タイプのうち、土砂流出・崩壊防備エリアでは、根系が深く発達し、適度な陽光が入るよう密度管理することによって下層植生の発達が良好な森林に誘導又は維持し、必要に応じて土砂の流出、崩壊を防止する治山施設等を整備する。

(イ) 気象害防備エリア

山地災害防止タイプのうち、気象害防備エリアでは、下枝が密に着生しているなど遮蔽能力が高く、諸害に対する抵抗力の強い樹種によって構成される森林に誘導し又はこれを維持するために必要な管理経営を行う。

山地災害防止タイプの面積 (単位：ha)

区 分	山地災害防止タイプ	面積	
		うち土砂流出・崩壊防備エリア	うち気象害防備エリア
面 積	6, 7 5 9	6, 7 5 9	—

注) 四捨五入により計が一致しない場合がある。

イ 自然維持タイプにおける管理経営の指針その他自然維持タイプに関する事項

自然維持タイプは、自然の推移に委ねることを原則として、保護を図るべき森林生態系を構成する野生動植物等の特性に応じ、保全すべき自然環境の維持・形成に必要な管理経営を行う。

なお、希少な野生動植物の生息・生育に資するために必要な森林、遺伝資源の保存に必要な森林等については、「保護林」に設定し、適切に保全を図る。

自然維持タイプの面積 (単位：ha)

区 分	自然維持タイプ	面積
		うち保護林
面 積	2, 7 2 1	2, 4 1 1

ウ 森林空間利用タイプにおける管理経営の指針その他森林空間利用タイプに関する事項  
 森林空間利用タイプは、保健、文化、教育等様々な利用の形態に応じた管理経営を行うものとし、具体的には、景観の向上やレクリエーションの利用を考慮した森林の整備を行い、必要に応じて遊歩道等の施設の整備を行う。

なお、国民の保健・文化的利用に供するための施設又は森林の整備を積極的に行うことが適当と認められる国有林野については、「レクリエーションの森」として選定する。既存の「レクリエーションの森」については、施設の老朽化や利用者ニーズ等の変化を踏まえ、リフレッシュ対策を実施していくとともに、利用が著しく低位にある地区や今後の維持管理等が見通し難い地区については、地元自治体をはじめ幅広い地域関係者等の意見を充分勘案し、必要に応じて廃止を含めた見直しを図る。

森林空間利用タイプの面積 (単位：ha)

区 分	森林空間利用タイプ	うちレクリエーションの森
		面 積

エ 快適環境形成タイプにおける管理経営の指針その他快適環境形成タイプに関する事項  
 快適環境形成タイプは、騒音や粉塵等の緩和及び風害や霧害等の気象災害防止等、地域の快適な生活環境を保全する観点から、汚染物質の吸着能力が高く、かつ、抵抗性があり、葉量の多い樹種によって構成される森林に誘導し又はこれを維持するために必要な管理経営を行う。

快適環境形成タイプの面積 (単位：ha)

区 分	快適環境形成タイプ
面 積	該当なし

オ 水源涵養<sup>かん</sup>タイプにおける管理経営の指針その他水源涵養<sup>かん</sup>タイプに関する事項  
 水源涵養<sup>かん</sup>タイプは、良質で豊かな水の安定供給を確保する観点から、浸透・保水能力の高い森林土壌を有し、根系や下層植生の発達が良好な森林に誘導し又はこれを維持するために必要な管理経営を行う。

水源涵養<sup>かん</sup>タイプの面積 (単位：ha)

区 分	水源涵養 <sup>かん</sup> タイプ
面 積	1 9, 0 3 7

## ② 地域ごとの機能類型の方向

当計画区は、次の地区に大別され、地区ごとに重点的に行うべき管理経営は次のとおりである。

### ア 五葉山地区（1～23、301～310、404、405林班）

当地区は、大船渡市、住田町、釜石市にまたがる山岳林で、ヒメコマツ（キタゴヨウマツ）、ヒバ、ネズコ、ナラ等の天然林及びアカマツ人工林からなっている。

盛川上流部及び甲子川上流部の五葉山山頂に至るまでの区域に貴重な植物群落が存在することから、「五葉山植物群落保護林」に設定しているほか、ほぼ全域が五葉山県立自然公園、保健保安林に指定されている。

また、五葉山自然観察教育林の指定もあり、自然景観の維持、貴重な動植物の保護を図りつつ、自然観察学習に利用する等、保健文化機能を発揮させるため、主として「自然維持タイプ」と「森林空間利用タイプ」に区分して管理経営を行うこととする。

なお、桧山川、枯松沢川、荒川上流部は、下流域の重要な水源地となっていることから、水源涵養機能を発揮させるため、「水源涵養タイプ」に区分して管理経営を行うこととする。

### イ 気仙川地区（24、25、27～60、62～75林班）

当地区は、大部分が気仙川流域に位置する丘陵林で、そのほとんどがスギ、アカマツ人工林からなっている。小規模な飛び地を除き、水源かん養保安林に指定されており、山地災害防止機能及び水源涵養機能を発揮させるため、主として「水源涵養タイプ」と「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行うこととする。

### ウ 大槌川地区（145～204、207～239林班）

当地区は、大槌川及び小槌川流域に位置する山岳林で、カラマツ人工林とブナ等広葉樹天然林からなっている。両流域とも上流部は、集落が近接し、住宅地や農耕地への影響等から水源かん養保安林の指定が多く、山頂部周辺については、急傾斜地が多いことから、土砂の流出防止等の山地災害防止機能及び水源涵養機能を発揮させるため、主として「水源涵養タイプ」と「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行うこととする。

### エ 片羽山地区（101～144、311～379、382～403林班）

当地区は、釜石市北東部の釜石市街地を通り釜石湾に注ぐ小川川流域と大槌湾に注ぐ橋野川流域に位置する山岳林で、ブナ、ナラ等の天然林及びアカマツ、カラマツ人工林からなっている。小川川流域は、下流には集落地が多く、また、JR釜石線、国道283号線を流れること等からほぼ全域が水源かん養保安林に指定されていること、及び洪水調節等を目的とした日向ダムが設置されていることから、水源涵養機能を発揮させるため、主として「水源涵養タイプ」に区分して管理経営を行うこととする。

橋野川流域は、片羽山山頂付近が急峻で崩壊しやすい地形であり、山地災害防止機能を発揮させるため、「山地災害防止タイプ」に区分して管理経営を行うこととする。

### (3) 森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた貢献に必要な事項

国有林野の管理経営に当たっては、流域を単位として民有林・国有林が連携して森林の整備等を行う流域管理システムの下で、大槌・気仙川流域森林・林業活性化センター等の場を通じ、県、市町村、森林組合、林業事業体等と密接な連携を図りながら、地域の森林・林業の再生に貢献していくため、組織・技術力・資源を活用し、民有林の経営に対する支援等を先導的・積極的に進めていく。

具体的には、気仙スギを主体とした木材の需要拡大の推進と安定供給、低コスト作業システムの推進、森林病虫獣害対策の推進、間伐促進のための高性能林業機械の活用や列状間伐の実施、効率的な路網整備、ボランティア団体等が実施する森林整備、体験林業等の場としてフィールドの提供などに積極的に取り組むこととする。

#### ① 低コスト化を実現する施業モデルの展開と普及

県、市町村、林業事業体と連携し、地形等諸条件に適合した林業機械の組合せと生産性を検証し、効率性の高い作業システムの構築を図る。また、現地検討会等を開催することにより、民有林における低コスト化施業の普及・定着に努める。

#### ② 林業事業体の育成

事業の早期発注、年間の事業発注見通しの情報提供など、計画的な事業の発注に努めることにより、事業体の安定的な雇用の確保に資することとする。また、国有林材の安定供給システム販売の推進、低コスト作業システムを推進するための現地検討会の実施などに努める。

#### ③ 民有林と連携した施業の推進

隣接する民有林との連携により事業の効率化や低コスト化等が図られる区域については、森林共同施業団地を設定し、地域における施業の集約化を促進する。具体的には、民有林と連結した路網の整備と相互利用の推進、土場の共有化、計画的な間伐等の森林整備の実施、民有林材との協調出荷などに取り組む。

釜石市初神上台地域に設定している森林共同施業団地において、路網の相互利用や集中的な間伐等を民有林・国有林一体となって推進する。

また、民有林と連携して、間伐等から生産される木材資源から木質バイオエネルギーとしての活用を推進する。

森林共同施業団地

箇所数	面積 (ha)	
	国有林	民有林
1	15.88	46.10



④ 森林・林業技術者等の育成

森林・林業の再生に向け市町村行政の支援を行うため、国有林野事業において専門的かつ高度な知識・技術と現場経験を有するフォレスター等を各種研修や業務を通じて育成することとする。

また、育成したフォレスター等及び県のフォレスター等と連携し、市町村森林整備計画策定への支援を行うとともに、技術指導や研修に必要な国有林野の多種多様なフィールドの提供、意見交換会等を通じて民有林の人材育成を支援する。

⑤ 林業の低コスト化等に向けた技術開発

民有林経営への普及を念頭にした効果的な間伐や路網と高性能林業機械等を組み合わせた低コストで効率的な作業システム等の技術開発を推進する。

その際、多様な森林のまとまりのあるフィールドを活用し、先駆的な技術や手法について国有林の管理経営や民有林における普及・定着に努める。

⑥ その他

ア 森林病虫獣害対策の推進

松くい虫の被害は、当流域の大船渡市三陸町が太平洋側の北限となっていることから、県、関係市町、民有林等と連携して情報を共有し、被害拡大防止対策の推進を図る。

また、ニホンジカについて岩手県、関係市町と情報の共有を図り、連携した取組を推進する。

イ 下流域住民に対する情報提供、林業体験活動

地元小・中学校、県振興局、各市町、各林業振興協議会等と連携し、森林環境教育の支援及び国有林野における施業や治山事業の見学会などを通じ地域住民への「国民の森林」をPR、フィールドの提供や林業体験に伴う講師派遣等の要望に応えた支援を行う。

また、地域との連携を深め、各種イベントに参加し、木工教室など「木とのふれあい」の情報発信を行う。

(4) 主要事業の実施に関する事項

④ 林道の開設及び改良総量

区 分	開 設		改 良	
	路線数	延長量 (m)	箇所数	延長量 (m)
計	16	11,750	10	1,495

## 2 国有林野の維持及び保存に関する事項

### (3) 特に保護を図るべき森林に関する事項

#### ① 保護林

種 類	箇所数	面 積 (ha)
森林生態系保護地域	—	—
森林生物遺伝資源保存林	—	—
林木遺伝資源保存林	—	—
植物群落保護林	1	1, 9 5 1
特定動物生息地保護林	—	—
特定地理等保護林	—	—
郷土の森	1	4 6 3
総 数	2	2, 4 1 4

#### ② 緑の回廊

名 称	延 長 (km)	面 積 (ha)
北上高地	1 6	3, 1 2 5
総 数	1 6	3, 1 2 5

### (4) その他必要な事項

#### ④ その他

「自然維持タイプ」と「森林空間利用タイプ」については、地域住民、ボランティア、NPO等とも連携を図りながら、生物多様性保全の視点も踏まえつつ、希少種の保護や移入種の侵入防止等に努めることとする。

## 4 国有林野の活用に関する事項

### (1) 国有林野の活用の推進方針

本計画区内の五葉山自然観察教育林では、コメツガ、ハイマツ等の高山植物群落が随所に見られ、ニホンジカ、カモシカ等の野生動物が豊富に生息しており、自然探勝、自然観察に利用されている。

このように、国有林野の活用に当たっては、当計画区の自然的、社会・経済的な特色を踏まえつつ、住民の意向等を考慮して、公用・公共用・公益事業の用に供する活用、都市と農山漁村の交流の促進、公衆の保健のための活用等地域における産業の振興や住民の福祉の向上に資するよう努める。

## レクリエーションの森

種 類	箇所数	面 積 (ha)
自然休養林	—	—
自然観察教育林	1	1, 281
風景林	2	9
森林スポーツ林	—	—
野外スポーツ地域	—	—
風致探勝林	—	—
総 数	3	1, 290

## 5 公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項

### (1) 公益的機能維持増進協定の締結に関する基本的な方針

国有林野に隣接・介在する民有林野の中には、小規模で孤立分散し立地条件が不利であること等から森林所有者等による施業が十分に行われず、当該民有林野における土砂流出等の発生が国有林野の有する国土保全等の公益的機能の発揮に悪影響を及ぼす可能性がある。

このような場合において、国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るために有効かつ適切なものとして、公益的機能維持増進協定制度を活用し、民有林野と一体的に施業を実施する取組を推進することとし、このことを通じて民有林野の有する公益的機能の維持増進にも寄与することとする。

具体的には、森林施業の集約化を図るための林道や森林作業道の開設とこれらの路網を活用した間伐等の施業、地域の森林における生物多様性の保全を図る上で必要となる施業等を民有林野と一体的に実施する取組を推進する。

### (2) 国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項

公益的機能維持増進協定の締結に当たっては、森林法等の定めに従い、民有林野の森林所有者等にも原則として相応の費用負担を求めるなど、合理的な役割分担の下での一体的な森林の整備及び保全の実施に向けた条件整備を進めることとする。

## 6 国民の参加による森林の整備に関する事項

### (3) その他必要な事項

#### ① 森林環境教育の推進

学校、地方公共団体、企業、ボランティア、NPO、地域の森林所有者や森林組合等の民有林関係者等、多様な主体と連携しつつ森林環境教育の推進を図ることとし、学校等が国有林野で体験活動等を実施するための「遊々の森」や学校分収造林の活用、森林管理局・森林管理署等による林業体験や森林教室等の体験活動、森林の有する多面的な機能に関する普及啓発の実施、指導者の派遣や紹介、森林環境教育に適したフィールドの情報提供等の取組を推進することとする。

なお、国有林野を活用し体験活動を実施する「遊々の森」として、みちのくエコステーションこだまの駅と「こだまの駅遊々の森」、大船渡市立末崎中学校と「産土の森」を設定していることから、引き続き、フィールド及び情報を提供することとする。

その際、森林管理署に設置した森林・林業・木材に関する相談窓口である「緑づくり支援窓口」の機能充実に努め、教職員やボランティアのリーダー等に対する普及啓発や技術指導、森林環境教育のプログラムや教材の提供、波及効果が期待される取組を積極的に推進するとともに、農山漁村における体験活動とも連携した取組を推進することとする。

**別表1**

市町村	林班名
大船渡市	23, 59, 60
陸前高田市	50, 51
釜石市	108～113, 115, 116, 118～121, 123～144, 311～314, 359, 363, 371, 372, 389, 393, 394, 400, 404
住田町	1～4, 7～12, 30～32, 63
大槌町	145, 152～158, 160, 161, 165, 167, 168, 173, 180, 183, 188～193, 210, 214, 221～228, 230～238

**別表2**

市町村	林班名
該当なし	

**別表3**

市町村	林班名
大船渡市	17～20, 23
釜石市	126, 301～310, 356, 357, 359, 363, 364, 367, 368, 405
住田町	5～8
大槌町	158, 167, 168, 190, 191, 193, 224～226, 232～234, 236, 237

**別表4**

市町村	林班名
該当なし	

**別表5**

市町村	林班名
大船渡市	17～22
大槌町	195, 234

**別表6**

市町村	林班名
大船渡市	21